



### 高尾さくら公園、水辺プラザ公園で フォトウエディング

昨年9月9日と今年の3月29日に、高尾さくら公園・水辺プラザ公園で、2組のご夫婦がウエディングフォトの撮影を行いました。撮影時には、市職員が撮影構図を提案し、当日は荷物を運搬するなど、撮影のお手伝いをしながらお二人の門出を祝福。ご夫婦からは、「桜が満開で春婚らしい写真が撮れて満足」「見晴らしのいい公園で自然な写真が撮れた」と好評で、市からプレゼントされた桜の苗木を高尾さくら公園に植樹したことについて、「来年・再来年も見に来たい」との声も。

今年度は、両公園以外の公園でもウエディングフォトの撮影を、市がお手伝いします。都市計画課公園担当（☎594-5547）へお気軽にご相談ください。

担当職員がこの事業にける想いをnoteに！  
要チェック▶



①～③…高尾さくら公園、④～⑤…水辺プラザ公園



### 丹精込めて育てたお庭を公開

5月8日～10日に「きたもとオープンガーデン2026」が開催され、「花結会」の皆さんのお庭等全11か所に市内外から約1,800人が来訪しました。

平井清子さんの「ハンギングとお花の庭」は、初夏らしい色合いの花とさまざまな形の鉢を組み合わせたお庭で、中でもペペーティアーズという多年草を側面に這わせたバスケットには、来訪者からも多くの注目を集めていました。



### 21年間地域医療を支えた救急車が更新

4月25日、北里大学メディカルセンターで新たな救急車をお披露目する記念式典が行われました。これは、21年間現場を支え続けてきた救急車の出動増加や老朽化を踏まえ、同センターがクラウドファンディングで寄附を募り、更新を行ったものです。市内外の437人から目標を大幅に上回る約3,300万円の寄附が寄せられ、電動ストレッチャー等の最新設備を導入。阿古潤哉病院長は「地域の共有財産」と感謝を述べました。新車両は地域医療を支える架け橋として4月27日から稼働中です。

### 市民の皆さんとつくる 広報きたもとが9回目の 全国広報コンクール入選！

入選作品の詳細はこちら▶



5月1日、日本広報協会主催の令和8年全国広報コンクールの結果が発表され、北本市が「広報紙」「広報企画」両部門で入選しました。

「広報紙部門」入選作品は、里山を保全する市民の皆さんの豊かな暮らしを描く特集「これが私の里山ライフ」を掲載した広報きたもと令和7年10月号。審査員からは「文字や写真の配置の工夫が素晴らしい。これほど豊かな里山が残されていることに驚く」と評価され、紙面に登場した皆さんは「広報紙に取り上げられたことで地域からの信頼やつながりが増え、北本の里山を大事に思う仲間ができました。このバトンを次につなげたいです」と語りました。

「広報企画部門」の入選作品は、「マンガが創るまちのミライ 北本市公共施設マネジメント広報企画の軌跡」。5年間にわたって公共施設の統廃合状況を解説するマンガを広報きたもとに掲載し、説明会等で活用してきた企画で、審査員からは「広報紙を『課題解決のツール』として位置づけているのは画期的」と評価されました。



### トヨタカローラ埼玉株式会社と 災害協定を締結しました

4月2日、トヨタカローラ埼玉株式会社と「災害時における車両等の提供に関する協定」を締結しました。本協定は、大規模災害発生時に、同社の所有する外部給電可能な車両や一時避難設備として所有する車両の貸与、一時避難場所等としての店舗や車庫の提供等の災害支援について定めたものです。これにより、市民の命を守り、一時避難設備や一時避難場所等として利用が可能になることが期待できます。



### 市内在住の森田光菜さんが 青年海外協力隊としてコスタリカへ

3月30日、独立行政法人国際協力機構（JICA）青年海外協力隊としてコスタリカへ2年間派遣されることとなった市内在住の森田光菜さんが、市長を表敬訪問しました。市長からは、「多文化共生の重要性が高まる中、国際貢献の経験を積んでいただき、将来地元に戻元されることを期待します」と激励が送られました。森田さんは、4月から、コスタリカで体育を通して青少年らの健全な育成を目的とした活動に携わっています。

